

避難訓練事後評価

【問合先】危機管理課 ☎ 24-1111-1内線2472

避難訓練アンケート結果

2月2日(日)に実施された

愛媛県津波避難訓練では、多くの市民の皆さんに参加、協力をいただきましたこと、お礼を申し上げます。

本訓練では、407自治

会、避難者数14,808

人、関係機関を含め約15,

000人が参加し、無事に

終了することができました。

今後とも、防災行政への

ご理解ご協力を、よろしく

お願いします。

避難訓練での各地区の避難者数

	避難者数	避難率
宇和島地区	8,919 人	17.1 %
吉田地区	1,844 人	25.3 %
三間地区	447 人	18.0 %
津島地区	3,598 人	38.0 %
計	14,808 人	20.8 %

東日本大震災以降、市民の皆さんの防災意識も高まり、避難路・避難場所を確認している人や家庭で災害対策をしている人の割合が増えています。

しかし、消防・防災体制に満足している割合が35%と少ないため、今後さらなる推進が必要と考えています。

災害はいつ発生するか分かりません。来るべき大災害には全市民的な対応が求められます。今回の訓練で得られた課題や教訓を、今後の防災行政に活かすとともに、今後もういった訓練を通じ、防災意識、防災力の向上に努めていきます。

【対象】 407自治会

（訓練参加自治会数）

【回答】 303自治会

（329人）

【回答率】 74.4%

■ はい ■ いいえ ■ 無回答 (単位: % ※ ○数字は説明番号)

○訓練実施以前から、地域の避難路・避難場所を知っていた



90%の人が訓練以前から避難路、避難場所について知っていたと回答しています。

避難路避難場所については、地域に浸透していることが伺えます。

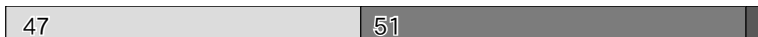
○家庭で食料・飲料の備蓄をしている



「はい」と回答した人のうち、備蓄している量について最も回答が多かったのが3日分で36%次いで、1日分、2日分がそれぞれ14%でした。

外部からの支援が届くまでの生活に必要なものについて、国では東日本大震災以降、7日分の家庭備蓄を推奨しており、現実との間に大きなギャップがあることが伺えます。

○家庭で非常持出品を準備している



○非常持出品を持って避難した



非常持出品を持って避難したと答えた人は30%にとどまっています。津波の緊急一時避難場所は当面の津波災害から逃れる一時的な避難場所であり、必要最低限の機能しかありません。

そのため、食料や生活物資の備蓄が整っていない場所がほとんどです。当面の命をつなぐには、各家庭において、最低限の非常持ち出し品を常に用意し、災害時には持ち出して避難することが大切です。

○避難指示の放送は聞こえましたか



○避難指示の放送などをどの方法で聞きましたか



①防災ラジオ: 27% ②一般のラジオ: 1% ③防災行政無線: 29% ④地域独自放送: 7% ⑤サイレン: 30% ⑥緊急情報放送サービス: 2% ⑦その他: 4%

市が25年度から整備を始めた防災ラジオは27%の人が放送を確認し、今回の訓練では一定程度の成果があったことが認められます。

○避難完了時間



①10分以内: 5% ②20分以内: 33% ③30分以内: 32% ④40分以内: 13% ⑤40分以上: 13% ⑥無回答: 4%

県の被害想定では、宇和島港で1mの津波が到達する時間が56分と想定されています。特に40分以上要した人の避難完了の時間を短縮しなければならないと考えられます。